

喜びをつなげる家庭菜園

普及部 国際課

紅茶で世界的に有名なスリランカ民主社会主義共和国は、インド南東に浮かぶ「光輝く島」という意味を持つ小さな島です。この島は、北海道の0・8倍ほどの大きさですが、2000mを超える山岳地帯があり、モンsoon（季節風）の影響もあって、熱帯性の異なった気候が凝縮された島です。また非常に石が多く、ダイヤは採れないものの宝石が良く採れることで有名な島国です。

政府が家庭菜園を推奨

約4年前、26年間にわたる内戦に終止符を打ったラージャパクサ現大統領は国民的英雄とされ、その政府の下、様々な政策が執り行われています。

例えば、スリランカでは内戦時代にインフレが進み、多くの貧困層の

人達がともに食べ物を買うことが難しくなりました。そのため、家庭を有効活用し、自分たちで食べ物を少しでも確保できるように、家庭菜園の推奨を政策の一つとして掲げました。

政府は家庭菜園を普及するにあたり、化学肥料と苗を無償で提供しました。しかしこれは、化学肥料の使用を推奨するためのものではなく、有機栽培で手軽に行える方法を知らなかったために行われたようです。

自然農法による

家庭菜園の普及

政府が家庭菜園の推奨政策を打ち出す前から、自然農法による家庭菜園を普及してきた団体の一つとして、ランカ世界救世財団（以下、ランカ財団）があります。スリランカ

で最初にEMを活用した自然農法を普及し始めた拠点の一つであり、現在2万人を超えるメンバーの多くが自然農法に関わっています。

今回は、その中でもスリランカの家庭菜園によくみられる、プランター栽培ならぬ袋栽培で見事な家庭菜園を作り、政府から表彰を受けたパッドマー・アイランガニさんの活動と、庭の一面を耕して近所の青空直売店の役割を果たしているキングスリー・カリヤワサム氏の2つの活動をご紹介します。

アイランガニさんの袋栽培

スリランカ最大の商業都市コロomboと古都キャンディの中間あたりに位置するルワンウェッラ市のレワンガマ村にアイランガニさんの家があります。彼女は、夫と子供2人の4



人家族を切り盛りしている主婦で、家事のかたわら家庭菜園にも励んできました。アイランガニさんは、周りにいる人も思わず顔がほころぶほどの素敵な笑顔の持ち主で、野菜を鳥たちから守るために、自分に似せた案山子を作るユニークさも持ち合わせた方です。

ランカ財団から自然農法を学んだ彼女は、家族の健康のために、また本当に安全な野菜を作りたいという想いで、政府が無償配布していた化学肥料は一切使わず、野菜も花もすべてEMボカシや堆肥だけを用いて自然農法の栽培に取り組みました。「自然農法でできた野菜を食べると健康になれますよ」と多くの方々に

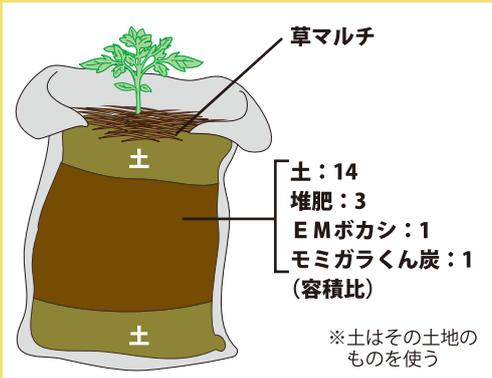


図1 アイランガニさんの袋栽培



一つ一つに愛情を込めて育てるアイランガニさん



紹介しています。

主に土のう袋を用いた袋栽培（図1）で、一つ一つに愛情を込めて育て、限られた面積を有効に活用して、たくさんの野菜や花の栽培に成功しました。それは化学肥料を用いた家庭菜園よりも大変良いできで、政府から表彰を受けるほどでした。

今は、家庭菜園だけでなく、ダンブツラ市にある自分の土地でも自然農法を始めています。できた野菜は近所の方や親せきにも配り、みんなを笑顔にしています。これからもより多くの方々に美味しく健康になれる自然農法の野菜を紹介していきたいと考えています。

カリヤワサム氏の青空直売店

ランカ財団の代表者であるカリヤワサム氏は、コロンボの北に位置するガンパハ市のカタナ村で20年近く前から自然農法による家庭菜園に取り組んでいます。自然農法を始めた理由は、創始者岡田茂吉師の理念に共感し、大自然と触れ合いながら、多くの方々にも霊気（食物が持つ生命エネルギー）の高い野菜を味わってもらいたいと考えたためです。カリヤワサム氏は、庭の一面を耕

してEMボカシ・牛糞堆肥にEM活性液を使用して土づくりを行い、南国の強い日差しを防ぐために草マルチを欠かさず用いるようにしています。ナス、カボチャ、トウガラシ、ダイコンといった日本にもなじみの深い野菜から、パイナップル、バナナなどの南国フルーツなど10種類を超える野菜や果物が一年中栽培されています。新鮮で美味しい自然農法の作物は近所でも有名で、皆さんが野菜や果物を買いに来るため、さながら自然農法の青空直売店のようになっています。

カリヤワサム氏は日々の仕事を終えると、奥さん、3人の愛娘、自然農法の野菜や果物、花が待つ家に帰り、時間をみてもは菜園の手入れを行います。そんな愛情に包まれた日常を通して思うのは、これからも大自然を愛し、尊重し、家族ともに自然農法を楽しみながら、より多くのの人に、この野菜の味と食べる喜びを伝えていくことだそうです。

広がる自然農法の輪

現在、この安全・安心な自然農法の家庭菜園の輪が、ランカ財団を通してスリランカ全土に拡大しつつあ

ります。それは家庭における自然農法の作物を作る喜び、食べる喜びから、近所の人にも喜んでもらえる喜びへと繋がっているからです。今後も、この家族の健康を守る愛情の輪がますます広がっていくように、この活動を継続的に支援していきたいと思えます。

（佐野 雄次郎）



日本と同じようなゴーヤの仕立て方



10種類を超える野菜や果物が一年中栽培されているカリヤワサム氏の家庭菜園